



ベルリン大聖堂ファサードの「ルターの薔薇」 講師撮影

関西学院大学 キリスト教と文化研究センター(RCC)主催 宗教改革500年記念講演会

「ルターの薔薇」の成立事情

講師：蜷川 順子 氏

2017年 11月27日(月) 16:50~18:20

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス B号館204号教室



蜷川 順子 (にながわ じゅんこ)

関西大学文学部総合人文学科教授
(芸術学美術史専修)

京都大学大学院文学研究科博士後期課程美学美術史専攻単位取得退学。西洋美術史、特に15、16世紀の北方美術を専門とする。オランダ政府給費留学生、近畿大学講師、助教授などをへて、2001年より関西大学に勤務。現在文学部教授。2011年にベルギー、ヘント大学にて博士号取得。近編著に『油彩への衝動』(中央公論美術出版、2016年)、『聖心(みこころ)のイコノロジー—宗教改革前後まで—』(関西大学出版部、2017年) などがある。

「ルターの薔薇」として知られるルター派の紋章は、文様化された白い薔薇の花弁の中に、中央に黒い十字架のある赤いハート形が配されたもので、もともとルター家が用いた薔薇のある紋章に由来すると考えられる。ルターはこの個人的な紋章を、多くの海賊版から自らの著作を区別する目印として表紙につけて用いたが、宗教改革が進行する過程で、これを「私の神学の目印」と呼んでルター派の旗印とし、1530年に友人のシュペンゲラーに宛てた手紙で、その意味を説明した。しかしながら、その造形的源泉に関しては、ルター派の画像の多くがそうであったように、カトリックの伝統的な図像に求めることができる。ここでは、絵画や挿絵などを用いて、この紋章の核となる聖心モチーフに注目しながら時代をやや遡り、紋章成立の事情をルターと周囲との関係に探る。

AM ANFANG
WAR DAS WORT

